



天
曜
文
庫

のんく樂とつづき
 のまのそのり 細花 孟し女きよふり
 つたてしやうてうり
 細目どろあ佐の中よ
 と申さふいせしませども
 うらうらふは方へ海
 わらわのわらわとて若
 の中まをどいりやうよ
 同床申すても
 くはりさうぬおんを
 つけてそづきさうよえ
 こらさ女房うらりの
 死中まもけはれ里よ
 せしませどがうくし
 うらうらふれどまへと
 へにらうせめてのす
 よ女房をよまよのそあ
 してさの中いづのゆあ
 の池へいこめまうく
 我申さの女房をよま
 のそそ世の方とて
 南の池乃らうよ
 細 未申の町と南はゆ

らひのわいり漕あま
 らのれいせとてのそ
 尤舟してまられしひら
 こらこのはうらうら
 新歌鶴首 何 鶴又作艦
 淮南子 龍舟鶴首 註高
 誘去鶴 水鳥也 畫其象
 着 船首以禦水患 云云
 細 希ようらめい
 えもい事也 終いり
 あらよははらうゆあり
 鶴い風とやうく
 物なれと花なりり
 めの目い雅樂つこの人
 めて取の樂を
 よ新歌鶴首の女もよ
 とて見の樂ぬ故のゆに
 やおよにやうの二も也
 是のゆらうらめい
 故の夜申さのそし後
 よ世の上りり花あり
 中務の入り 細 希へうら
 らひ心のあま中務乃

らひのわいり漕あま
 らのれいせとてのそ
 尤舟してまられしひら
 こらこのはうらうら
 新歌鶴首 何 鶴又作艦
 淮南子 龍舟鶴首 註高
 誘去鶴 水鳥也 畫其象
 着 船首以禦水患 云云
 細 希ようらめい
 えもい事也 終いり
 あらよははらうゆあり
 鶴い風とやうく
 物なれと花なりり
 めの目い雅樂つこの人
 めて取の樂を
 よ新歌鶴首の女もよ
 とて見の樂ぬ故のゆに
 やおよにやうの二も也
 是のゆらうらめい
 故の夜申さのそし後
 よ世の上りり花あり
 中務の入り 細 希へうら
 らひ心のあま中務乃

らひのわいり漕あま
 らのれいせとてのそ
 尤舟してまられしひら
 こらこのはうらうら
 新歌鶴首 何 鶴又作艦
 淮南子 龍舟鶴首 註高
 誘去鶴 水鳥也 畫其象
 着 船首以禦水患 云云
 細 希ようらめい
 えもい事也 終いり
 あらよははらうゆあり
 鶴い風とやうく
 物なれと花なりり
 めの目い雅樂つこの人
 めて取の樂を
 よ新歌鶴首の女もよ
 とて見の樂ぬ故のゆに
 やおよにやうの二も也
 是のゆらうらめい
 故の夜申さのそし後
 よ世の上りり花あり
 中務の入り 細 希へうら
 らひ心のあま中務乃

わがうゝ 細花 既下なり

花 胡条と日本紀しあ

ぐうとくうの 樂人の在

し 飛胡条をいじりし

とくけうのりやくう

さるがののん

孟ががく 蜀し

よきと引てまうりし

唐の天子は引て

花のの かしきさう

まよののそめえわがや

よのしんあま一かみ

しとくうく 細花 中

まの秋と空をゆまの

とをくく 松まるしは

は蝶とわくくくくく

あくくくく 師下 空に

秋の雲はは花園の 細花

の西のくくくくくく

くくくく

くくくく

くくくく

くくくく

くくくく

くくくく

くくくく

くくくく

くくくく

よきとわくくくくく

孟 孟条のの

らよわがくくくく

どもみくくのの

まらるがわがくくの

くくくく

くくくく

くくくく

くくくく

くくくく

くくくく

くくくく

くくくく

くくくく

くくくく

くくくく

くくくく

くくくく

くくくく

くくくく

くくくく

くくくく

くくくく

くくくく

くくくく

くくくく

くくくく

くくくく

腰巻糸緒のゆく細巻と糸緒はうごとく腕はよそうふまじり
 くれをかり

おのりそまつくく女のこと
 うごく 弄女の装束とい
 表つ〜とあつとどろろ
 一い表とどろり付とま
 とらと唐衣とつお今
 のせか〜と綴との四ゆま
 どハゴまき

ねよま〜と〜と 細り
 〆帯の梅のかつえと帯
 のねよま〜と〜と
 とどろり式明のそと
 のゆり〜と〜と
 血染のいかり〜と
 もはゆり〜と〜と

こ〜と 細巻よそ
 つれてあり〜と系
 と〜と 係り〜と
 子ぶら〜と
 こと〜と
 細巻と又中ま〜と

こ〜と 細巻よそ
 つれてあり〜と系
 と〜と 係り〜と
 子ぶら〜と
 こと〜と
 細巻と又中ま〜と

うらのおそあぢそ〜と女のうら〜と
 ぐけあぢ〜と
 ね〜と
 う〜と
 ぶ〜と
 ん〜と
 ん〜と
 かな〜と
 かな〜と
 かな〜と
 かな〜と
 かな〜と
 かな〜と
 かな〜と
 かな〜と
 かな〜と

こ〜と 細巻よそ
 つれてあり〜と系
 と〜と 係り〜と
 子ぶら〜と
 こと〜と
 細巻と又中ま〜と

あつと〜と
 細あ〜と
 らん〜と
 て〜と
 と〜と
 ら〜と
 ぶ〜と
 と〜と

細あ〜と
 らん〜と
 て〜と
 と〜と
 ら〜と
 ぶ〜と
 と〜と

あつと〜と
 細あ〜と
 らん〜と
 て〜と
 と〜と
 ら〜と
 ぶ〜と
 と〜と

あつと〜と
 細あ〜と
 らん〜と
 て〜と
 と〜と
 ら〜と
 ぶ〜と
 と〜と

これハ、まづ、
孟夕朝ハ、孫ハ、いさこ人
てわりハ、いさこ人
と云ふハ、いさこ人

細
の方へ方く、いりの文
あつたり、それいさこ
とほの地が、いさこ
いさこ、いさこ 孟 龍 書
いさこ、いさこ、いさこ
あれと、いさこ、いさこ
いさこ

細
細 兵 左 衛 門 兵 衛 門
てい、いさこ、いさこ、いさこ
いさこ、いさこ、いさこ、いさこ
いさこ、いさこ、いさこ、いさこ
いさこ、いさこ、いさこ、いさこ
いさこ、いさこ、いさこ、いさこ

て、いさこ、いさこ、いさこ、いさこ

四月 天氣 和 之 清 々
いさこ、いさこ、いさこ、いさこ

いさこ、いさこ、いさこ、いさこ

いさこ、いさこ、いさこ、いさこ

いさこ、いさこ、いさこ、いさこ

いさこ、いさこ、いさこ、いさこ

いさこ、いさこ、いさこ、いさこ

いさこ、いさこ、いさこ、いさこ

いさこ、いさこ、いさこ、いさこ

いさこ、いさこ、いさこ、いさこ

いさこ、いさこ、いさこ、いさこ

いさこ、いさこ、いさこ、いさこ

いさこ、いさこ、いさこ、いさこ

いさこ、いさこ、いさこ、いさこ

いさこ、いさこ、いさこ、いさこ

いさこ、いさこ、いさこ、いさこ

つくさしつゝあつめりゆく
思母 弟のまねよこもどろ
りてよつて
わがとほろつて
女のまはらぬ
みまはらぬ
ねんまはらぬ
物のまはらぬ
わがとほろつて
あつめりゆく
つくさしつゝあつめりゆく
思母 弟のまねよこもどろ
りてよつて

つくさしつゝあつめりゆく
思母 弟のまねよこもどろ
りてよつて
わがとほろつて
女のまはらぬ
みまはらぬ
ねんまはらぬ
物のまはらぬ
わがとほろつて
あつめりゆく
つくさしつゝあつめりゆく
思母 弟のまねよこもどろ
りてよつて

思と二人が
あつめりゆく
思母 弟のまねよこもどろ
りてよつて
わがとほろつて
女のまはらぬ
みまはらぬ
ねんまはらぬ
物のまはらぬ
わがとほろつて
あつめりゆく
つくさしつゝあつめりゆく
思母 弟のまねよこもどろ
りてよつて

あつめりゆく
思母 弟のまねよこもどろ
りてよつて
わがとほろつて
女のまはらぬ
みまはらぬ
ねんまはらぬ
物のまはらぬ
わがとほろつて
あつめりゆく
つくさしつゝあつめりゆく
思母 弟のまねよこもどろ
りてよつて

けしきふらふら
肝夕典ハありあけ
~~~~~

~~~~~  
細糸
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

廿

廿七

神の書紙 何れに
 一はよおとけすて
 孝徳本 五月廿日花
 梅の巻とくあひい
 のん乃神の書こそす
 細紙とは夕更よま
 一はあわぢくは我
 おりともまくぬ
 りしかり花くぬ
 小原のくきぬぬ
 きのんまふぬぬ
 ころくふぬぬ

神の書紙 何れに
 一はよおとけすて
 孝徳本 五月廿日花
 梅の巻とくあひい
 のん乃神の書こそす
 細紙とは夕更よま
 一はあわぢくは我
 おりともまくぬ
 りしかり花くぬ
 小原のくきぬぬ
 きのんまふぬぬ
 ころくふぬぬ

神の書紙 何れに
 一はよおとけすて
 孝徳本 五月廿日花
 梅の巻とくあひい
 のん乃神の書こそす
 細紙とは夕更よま
 一はあわぢくは我
 おりともまくぬ
 りしかり花くぬ
 小原のくきぬぬ
 きのんまふぬぬ
 ころくふぬぬ

神の書紙 何れに
 一はよおとけすて
 孝徳本 五月廿日花
 梅の巻とくあひい
 のん乃神の書こそす
 細紙とは夕更よま
 一はあわぢくは我
 おりともまくぬ
 りしかり花くぬ
 小原のくきぬぬ
 きのんまふぬぬ
 ころくふぬぬ

しつろめく 細源経
よむらぐつととらひし
づき人もそくねと
のどと原の自移く
兼原氏の田んこへのや
かりのわくしとく
毎ハヤミて風の竹よりけり
衣 月照松時臺上行
細和且清の末句也
愚案 兼よぬのうらみ
つとらちうりのとあり
一節をく
うらうらと経かりけり
とる 細初着單衣
舞 舞は白も文集回
詩の中の句 兼原の
兼女末のさう入るは
ぞどもととらうけり
づらうして兼末よあり
うまふし

しつろめく
よむらぐつととらひし
づき人もそくねと
のどと原の自移く
兼原氏の田んこへのや
かりのわくしとく
毎ハヤミて風の竹よりけり
衣 月照松時臺上行
細和且清の末句也
愚案 兼よぬのうらみ
つとらちうりのとあり
一節をく
うらうらと経かりけり
とる 細初着單衣
舞 舞は白も文集回
詩の中の句 兼原の
兼女末のさう入るは
ぞどもととらうけり
づらうして兼末よあり
うまふし

兼上の御よととらうしとの
親ありともと兼氏末
うらうらととらひまひ
ふみまうらうらうらとく
あひまうらく お実又内大
后ハゆらうらうらよとあふ
るやいありともうらうら
の抱あひいありしとあ
うらうらととらひまひ
しつろめく
細源氏女のうらひまひ
しつろめく
兼よぬのうらみ
つとらちうりのとあり
一節をく
うらうらと経かりけり
とる 細初着單衣
舞 舞は白も文集回
詩の中の句 兼原の
兼女末のさう入るは
ぞどもととらうけり
づらうして兼末よあり
うまふし

しつろめく
よむらぐつととらひし
づき人もそくねと
のどと原の自移く
兼原氏の田んこへのや
かりのわくしとく
毎ハヤミて風の竹よりけり
衣 月照松時臺上行
細和且清の末句也
愚案 兼よぬのうらみ
つとらちうりのとあり
一節をく
うらうらと経かりけり
とる 細初着單衣
舞 舞は白も文集回
詩の中の句 兼原の
兼女末のさう入るは
ぞどもととらうけり
づらうして兼末よあり
うまふし

